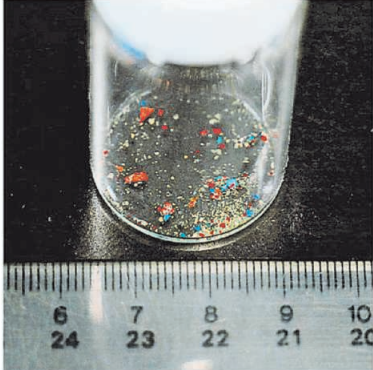


笠岡高（笠岡市）のサイエンス部がプラスチックごみの微粒子「マイクロプラスチック」について、調査や啓発をしています。記事を読み、質問に答えましょう。

カブトガニ 繁殖地にプラ微粒子



カブトガニ繁殖地などの土壌に含まれるマイクロプラスチックを観察する笠岡高サイエンス部生徒



繁殖地で採取したマイクロプラスチック

5月21日付山陽新聞、全県版

笠岡高サイエンス部調査

カブトガニの生態研究や保護啓発に取り組む笠岡高（笠岡市）サイエンス部が、生息環境に悪影響を及ぼす可能性のあるプラスチックごみの微粒子「マイクロプラスチック」（直径5ミ以下）の問題について、調査や啓発を続けている。市内にある繁殖地（国天然記念物）の土壌中に存在することを突き止めており、「一人一人が豊かな海を守る」と自覚し行動することが大切だ」と訴える。（山本貴之）

撮取の恐れ 「ごみ投棄やめて」

同部では本年度、さらに実態を把握するためマイクロプラスチック調査の回数を年数回に増やす計画。繁殖地に注ぐ河川の水質調査やごみ拾いにも定期的に取り組み、岸野さんは「海ごみを減らすよう、部員たちが活動する姿を地域で見てもう一つ、も啓発になる」と力を込める。

市内に繁殖地があること内外の干潟3カ所で実施。から、同高では2016年土壌を採取し、遠心分離機から生徒有志がカブトガニの保護などの活動をスタート。19年には部活動に移行し、調査研究を深めている。有害物質を吸着するなど環境への悪影響が懸念されており、カブトガニが撮取している恐れもある。21年の調査では前年より大きなプラスチック片も見つかり、部長の3年岸野カイトさん（17）は「干潟か、上流の川に新たにごみが捨てられている可能性がある」と推測する。部員たちは、ごみの投棄が続いている状況を各地の高校生、研究者、企業人が集まる場や地元小学生向けワークショップといったさまざまな機会に報告。「カブトガニを守ることは人間の暮らしを守る」となると呼び掛けている。今年3月下旬には、日本科学未来館（東京）が主催した「高校生ちぎゅうワークショップ」にも出席。21日には中四国の高中生や研究者が集う学会でもオンライン発表を行う予定だ。

Q1 笠岡高サイエンス部は、カブトガニの生態研究や保護啓発に取り組む中で、マイクロプラスチックがどんな場所にあることを突き止めましたか。第1段落（リード）や見出しを参考に答えましょう。

Q2 マイクロプラスチックにはどのような懸念があって、カブトガニにどんな恐れがあるでしょうか。第4段落から書き出しましょう。

Q3 海ごみを減らすために、皆さんはどんなことができるか、考えてみましょう。

過去の問題は
 こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。